

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	1	自分の想いをもち、伝え合う子の育成
目標（評価規準）	＜自分を大切に、同じように、他の人も大切にすること＞意識・態度の育成	
重点に係る現状 設定理由	本校児童は、素直で、優しく、おだやかな子が多い。また、協力的・協働的で、物事に一生懸命取り組むことができる。しかし、やや主体性（自分の判断や意思に基づき、責任をもって行動すること）に欠け、「自分の想いを伝える力」が弱い実態がある。自分に自信を持ち、自分の考え・想いを育てる等、自己肯定感、自己有用感を高め、自分を大切にすることを育てることで、人権を尊重した教育活動の展開を図りたいと考える。	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	・【豊かな心】「自分を大切に、同じように、他の人も大切にすること」が、育成されている。」という項目では約89%の教職員が「そう思う」「ややそう思う」と評価しているため、重点を意識しての教育活動が行えていると思われる。 ・「何を学ぶか～他者との関わり～」、「どのように学ぶか～自分の考えを持ち、伝え合うことで、さらに自分の考えを深める～」という項目では95%、「何ができるようになるか～ものごとを多面的・多角的にとらえることができる。思いやりの心を持って行動できる～」という項目では、全教職員が肯定的回答をしている。 ・「何が身に付いたか～多様な価値観を認め、互いの良さを認めること～」という項目では、約95%の教職員が「そう思う」「ややそう思う」と評価している。本年度の重点を意識した授業が行えていると思われる。
各アンケート等の結果	・児童は「自分を大切に、同じように、他の人も大切にすること」にしている。」という質問項目には、約93%が「そう思う」「ややそう思う」と回答しているため、概ね自分の良さ、友達や周りの人の良さや多様性を認めようとする意識が高まっていると感じる。 ・保護者アンケートでは、【豊かな心】「自分を大切に、同じように、他の人も大切にすること」が、育成されている。」という項目では約93%が「そう思う」「ややそう思う」と回答しているため、高く評価されていると言える。「子どもは楽しく学校に通っている」という項目も、肯定的評価が約96%あった。
自己評価結果 （見解と改善方策）	〇コロナ禍でやむなく縮小していた学校行事等について、互いを尊重する意識を高めるために必要だと考えるものについては、再度検討し、実践してきた。また、今年度の重点目標を教職員が意識し、授業の中で、児童どうしの関わりを多くすることを意図的に組み入れることで、多様な価値観、互いの良さを認める力の育成を図っていた。来年度も、さらに【豊かな心】の育成を目指していきたい。 ・人権教育を基盤とし、共に学び、共に育つ環境づくりとして、授業や行事、教室掲示等を通して、認め合い、一人ひとりの居場所がある温かな学級・学年・学校づくりに努めた。「いじめ」や「児童虐待」防止の観点で、サポートブックを取り入れ児童の実態把握に努めたり、適切に対応できるよう教職員研修を実施したりした。また、教職員間で些細なことでも情報共有をし、気になる言動が見られた時には丁寧に聞き取りをし、学校として体制を整え、早期に対応できるようにした。今後も、日常の学級経営、授業、行事の中で、全教職員が変わらず意識してすすめていく。 ・今年度の児童会テーマを、児童が「わくわく」と設定し、みんなが学校生活が楽しみになるような学校づくりに向けて働きかけた。異学年交流の機会を多く設定し、学年を超えて関わり、互いを理解したり、上学年が下学年に優しく接したりする姿が多く見られた。今後も児童が主体的に活動できるよう支援していく。 ・今年度も学校の様子を保護者に伝えるために、行事や授業等、学校生活について、学校・学級通信を通して発信した。その結果、保護者アンケートでは、「学校・学年・学級だよりを発信したりして、開かれた学校づくりに努めている」という項目で、約98%の方から「そう思う」「ややそう思う」と高く評価していただいた。来年度も学校生活の充実を目指し、その様子を積極的に情報発信していきたい。
学校関係者評価結果	児童・保護者アンケートの結果を見ると、おおむね良好である。登校時に上学年が下学年を気遣いながら歩いている姿、6年生が1年生の学校生活の手伝いをしたり、一緒に遊んだりする姿はほほえましく、互いを大切に思っていることが伝わってくる。来年度も行事や日々の生活の中で、「自分を大切に、そして、他の人も大切にすること」の育成に努めてほしい。
最終改善方策	以下の3点について、課題等の改善に取り組む。 〇『学校グランドデザイン』の意図することを全教職員が理解・共有し、「自分を大切に、同じように、他の人も大切にすること」の育成を目指して、すべての教育活動に取り組むことを確認する。 〇担任一人ではなく、学年や専科の先生も含んだ複数の目で、一人ひとりの児童と関わることで、いじめの未然防止・早期発見に取り組む。 〇児童が児童会を中心に、自分たちで考え、想いを伝える「温かい学級・学年・学校づくり」に取り組めるよう支援する。

本年度の重点	2	自分の想いをもち、伝え合う子の育成
目標（評価規準）	＜心と体の健康を大切にし、がんばる＞意識・態度の育成	
重点に係る現状 設定理由	本校の児童は、楽しく外で遊んでいる子が多いが、運動や体力向上への意識の差が大きい実態がある。また、何事にも取り組もうとはするが、最後までがんばりぬこうとする意志も、強いとは言えない。家庭と連携した基本的生活習慣の確立を基本に、運動でも学習でも、自分の目標を設定し、そこに向かう想いをもち、努力し続ける力の育成を図りたいと考える。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	・【健やかな体】「心と体の健康を大切にし、がんばる子が育成されている。」という項目では、89%の教職員が、「そう思う」「ややそう思う」と評価しているので、重点を意識しての教育活動が行えていると思われる。 ・「保護者や地域の人の声や考えを聞きながら連携・協力をしている。」という項目では、89%の教職員が「そう思う」「ややそう思う」と評価している。家庭と連携した基本的生活習慣の確立を基本に努力し続ける子の育成をすすめたい。
各アンケート等の結果	・児童は、「学習や生活において、途中であきらめず、がんばろうとしている。」という項目には、約89%が「そう思う」「ややそう思う」と回答しており、「あきらめず、がんばろうとする」意識が育っていると感じられる。 ・保護者アンケートでは、「心と体の健康を大切にし、がんばる子が育成されている。」という項目には、約93%が「そう思う」「ややそう思う」と回答しているので、高く評価されている。
自己評価結果 （見解と改善方策）	○冬の寒い日も含め1年中、朝休み、20分休み、昼休みに元気に遊ぶ児童の姿が毎日見られた。ただ、運動やスポーツに意欲的に取り組む児童と、教室の中にいることが多い児童との、運動に対する意欲の差はまだ大きい。横浜FCのサッカー教室を活用したり、体育での学習が休み時間の活動につながるような工夫をしたりすることで、運動を楽しもうとする気持ち、姿勢をさらに育成していきたい。 ・連絡帳やアンケートを有効に活用するとともに、保護者会、コミコミスクール、土曜参観授業、個人面談等、保護者と話す機会に、学校や家庭での児童の様子について共有することで、児童の基本的生活習慣の確立、「心と体の健康を大切にし、がんばる子」の育成を、さらに進めていきたい。多くの保護者と情報共有できるよう、保護者会に参加する人数を増やすための工夫もしていきたい。 ・昨年度より開始したメールによる欠席連絡が、教職員の働き方改革につながったのはもちろん、保護者にとっても好評である。しかし、欠席が続いた場合や備考欄に気になることが書いてある時などは、必要に応じて電話連絡をし、具体的な様子を聞くようにした。今後も、メールの有効利用を継続しつつ、児童の実態把握に努めていきたい。
学校関係者評価結果	児童・保護者アンケートの結果をみても、おおむね良好である。運動会で、どの学年も楽しみながら、意欲的に取り組んでいる姿から、児童は体を動かすことが好きだというのがわかる。保護者の生活スタイルや働き方、考え方が変わってきているので、さらに保護者との連携を深めて、児童の基本的生活習慣の確立等に取り組んでほしい。
最終改善方策	以下の3点について、課題等の改善に取り組む。 ○『学校グランドデザイン』の意図することを全教職員が理解・共有し、「心と体の健康を大切にし、がんばる子」の育成を目指して、すべての教育活動に取り組むことを確認する。 ○保護者会や個人面談だけでなく、学級・学校通信等を活用して、家庭と連携した基本的生活習慣の確立を目指す。 ○生活・学習・運動面において、「めあて」と「振り返り」を大切にし、自分の目標を設定し、その達成に向けて、途中であきらめずがんばる力を育成していく。

本年度の重点	3	自分の想いをもち、伝え合う子の育成
目標（評価規準）	＜主体的に考え、学び合い、解決しようとする＞意識・態度の育成	
重点に係る現状 設定理由	本校の児童は、やや主体性（自分の判断や意思に基づき、責任をもって行動すること）に欠け、自分の考えを絶対に実行に移すなどの意志等を含めた「自分の想いを伝える力」が弱い実態がある。「初声小学校グランドデザイン」の中心となる資質・能力の育成の中の、「何を・どのように学び・何が身に付き・何ができるようになるか」を常に意識した授業を行うことで、目標の達成を図りたい。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	・【資質・能力の育成】「主体的に考え、学び合い、解決しようとする子が育成されている。」という項目では、78%の教職員が、「そう思う」「ややそう思う」と評価している。22%の教職員が「あまり思わない」と回答していることを課題として捉え、重点を意識した教育活動のあり方について情報共有をし、実践していきたい。 ・「何を学ぶか～基礎・基本、見方・考え方、学び方～」,「どのように学ぶか～学習のめあてを意識し、学習する。自分の考えを持ち、伝え合うことで、さらに自分の考えを深める。～」の項目では約95%,「何ができるようになるか～自分から好奇心・向上心を持って、学び続けることができる。学んだことを自分の生活や考えに生かすことができる。～」の項目では、すべての教職員が「そう思う」「ややそう思う」と評価している。 ・「何が身に付いたか～自分の学びの現状を把握し、主体的に課題解決に取り組むこと。学びを自分ごととして、捉えること。～」という項目では、約95%の教職員が、「そう思う」「ややそう思う」と回答している。
各アンケート等の結果	・児童は、学習についてのすべての項目について、「そう思う」「ややそう思う」と86%以上が回答をしているので、児童が主体的に考え、解決しようとする授業が展開されていると考えられる。 ・保護者アンケートでは、「主体的に考え、学び合い、解決しようとする子が育成されている。」という項目では、約80%が「そう思う」「ややそう思う」と回答しているので、高く評価されていると言える。ただ、「あまり思わない」「思わない」の回答が約16%だったことを課題ととらえ、取り組んでいく。
自己評価結果 （見解と改善方策）	○今年度の重点目標「自分の想いをもち、伝え合う子の育成」を常に意識して、話し合い・学び合いを主体とする授業、「主体的に考え、学び合い、解決しようとする子の育成」を目指した授業や活動を行ってきた。その結果、児童の「自分から取り組もうとする意識・態度」は高まったように感じる。 ・重点目標の達成を目指し、今年度は学校研究の教科を「総合的な学習の時間」と「生活」とした。児童の実態を踏まえた単元づくりや自ら課題を見つけ、考え、主体的に判断し、課題を解決していくような展開について考え、実践していくことで、児童が自分の想いをもち、伝え合う姿が多く見られた。 ・『学校グランドデザイン』の資質能力の育成,「何を学ぶか」,「どのように学ぶか」,「何が身に付いたか」,「何ができるようになるか」を一つ一つ見直すことで、全教職員が日々の授業をどのように展開するかを考えることができたことが、上記の成果にもつながったと考える。 ・次年度は、教職員の異動が多く、新しいメンバーが増える。今年度のふりかえりをしっかり行った上で、引き続き『学校グランドデザイン』を軸に、自分たちが目指す方向を確認しながら進めていきたい。
学校関係者評価結果	児童・保護者アンケートの結果をみても、おおむね良好である。授業参観を通して、ICTを活用したり、学び合いをしたりしながら児童が前向きに取り組んでいる様子がわかった。今後も、指導体制をさらに充実させ、複数の教職員の目で子どもを指導・支援してほしい。
最終改善方策	以下の2点について、課題等の改善に取り組む。 ○『学校グランドデザイン』の意図することを全教職員が理解・共有し、「主体的に考え、学び合い、解決しようとする子」の育成を目指して、すべての教育活動に取り組むことを確認する。 ○令和6年度の重点目標である「自分の想いをもち、伝え合う子の育成」は、来年度も継続して重点目標とすることで、さらにこのことを意識した授業を進めていく。